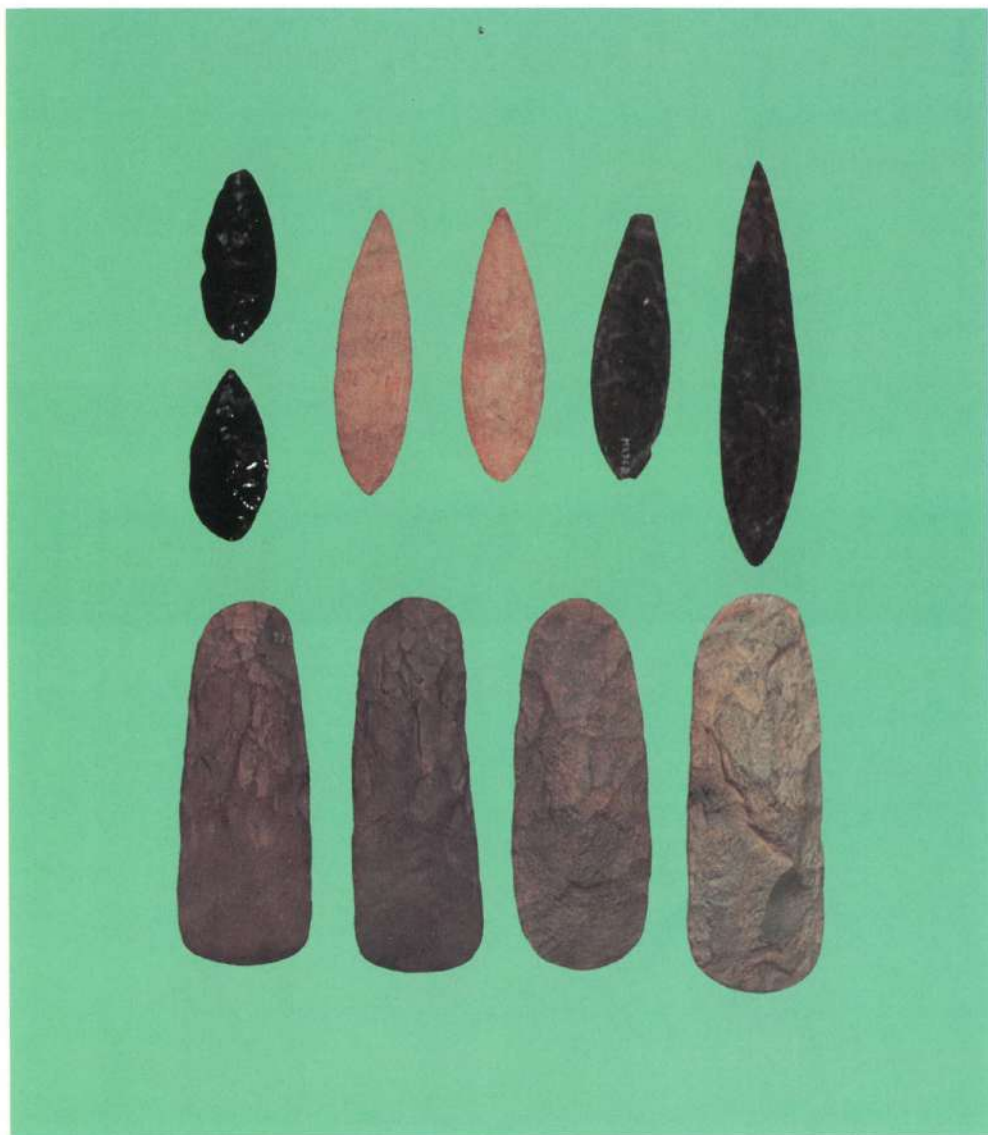


南箕輪村誌

上 卷

自然
遺跡
信仰
民俗
編編
編編
編編

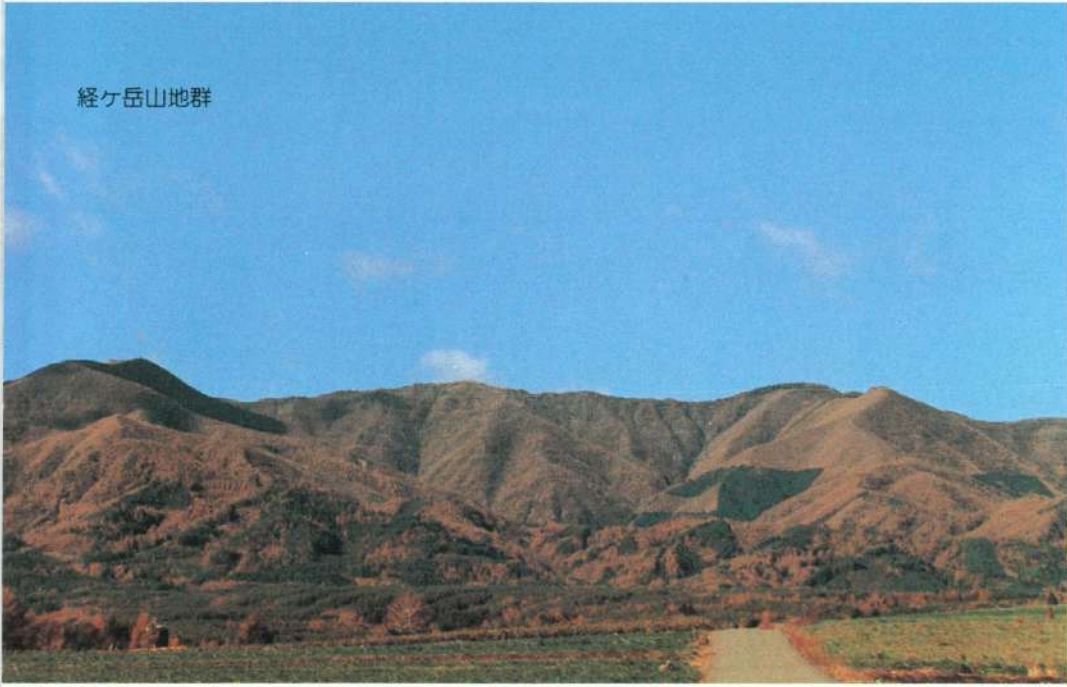


神子柴遺跡出土の先土器時代の石器

上段 6個 ポイント（尖頭器）

下段 4個 石斧（左 2個半磨製, 右 2個打製）

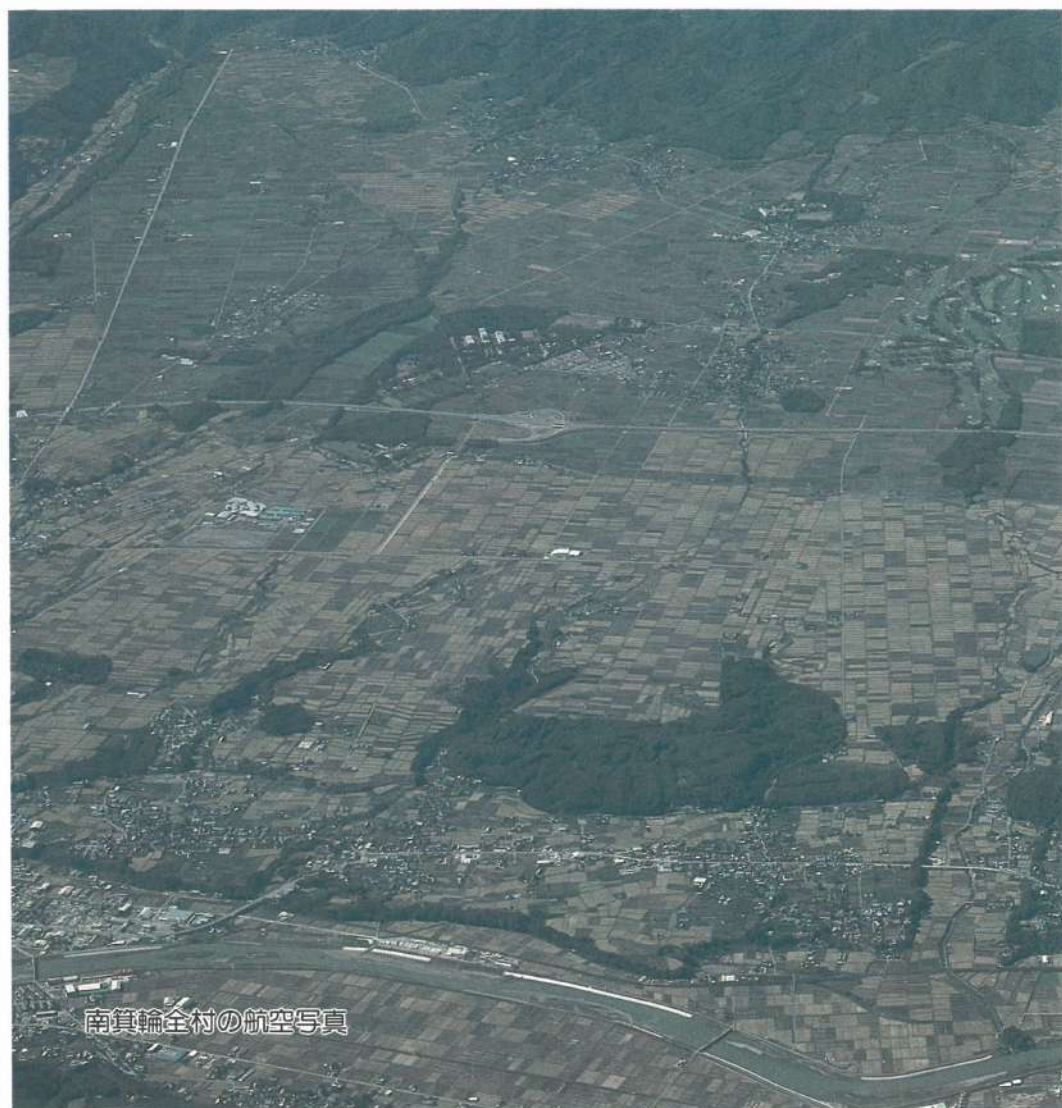
経ヶ岳山地群



木曽駒ヶ岳山地群



木曽駒ヶ岳山地群と経ヶ岳山地群



南箕輪全村の航空写真

新期
テフラ層

中期
テフラ層

礫層



← Pm-4
← Pm-3 不整合
← Pm-2'
← Pm-2
← Pm-1
← Pm-1' 整合
礫層

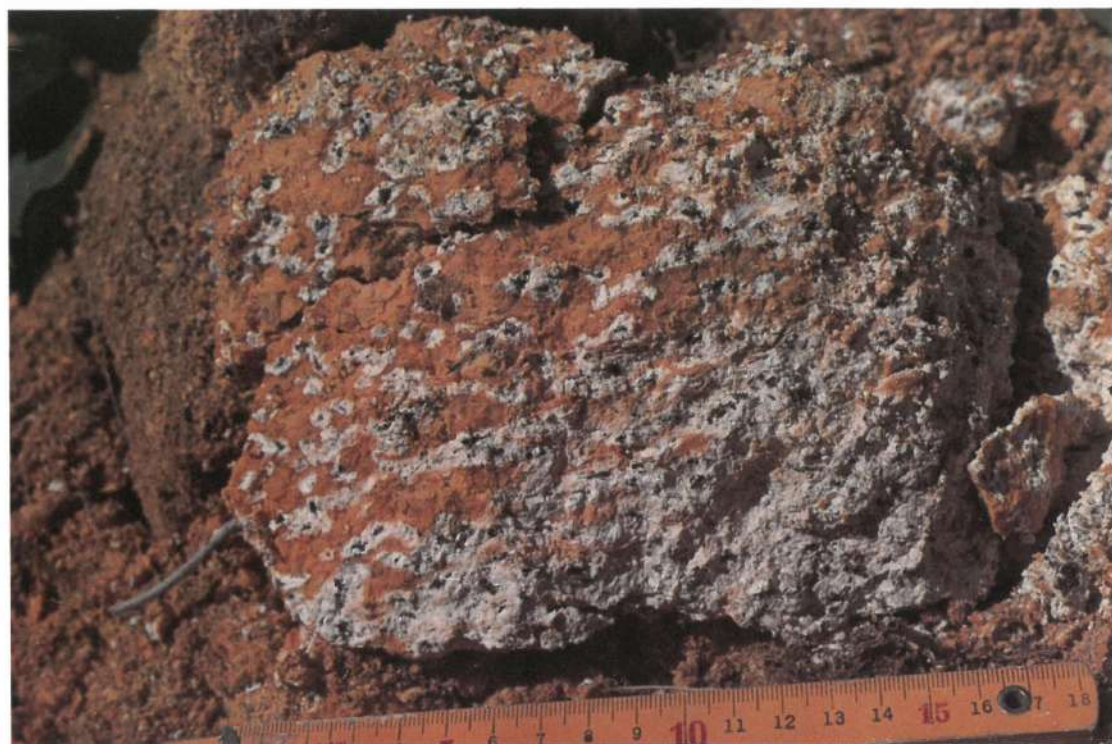
新期テフラ層と中期テフラ層
(新期テフラ層のPm-5は露出せず)



神子柴一Ⅱ段丘礫層 (大芝付近)
(テフラ層と礫層)



大泉川大泉橋西南新期土石流と新期テフラ層



御岳火山第1 浮石層の一つの大きさ



大泉川砂防ダム



南箕輪のワサビ畑



ザゼンソウ



ゲンジスミレ



ウスバアゲハの食草ケマンの群落



キテン (加藤利雄捕獲所蔵)



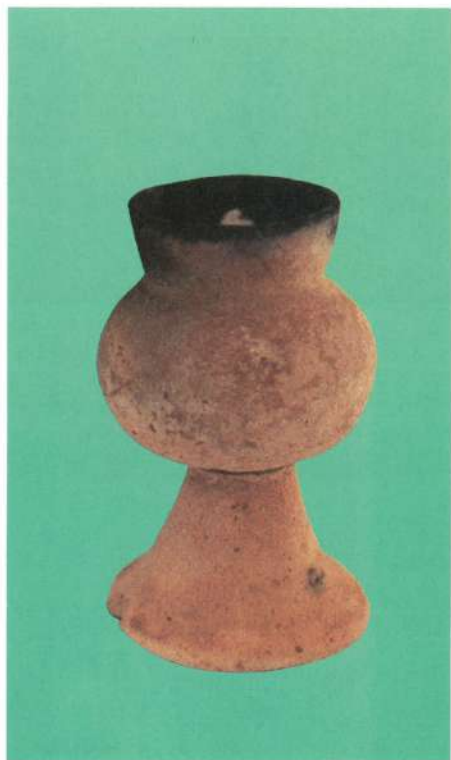
縄文中期 土器（左 香炉型土器，右 深鉢型土器）北高根遺跡出土



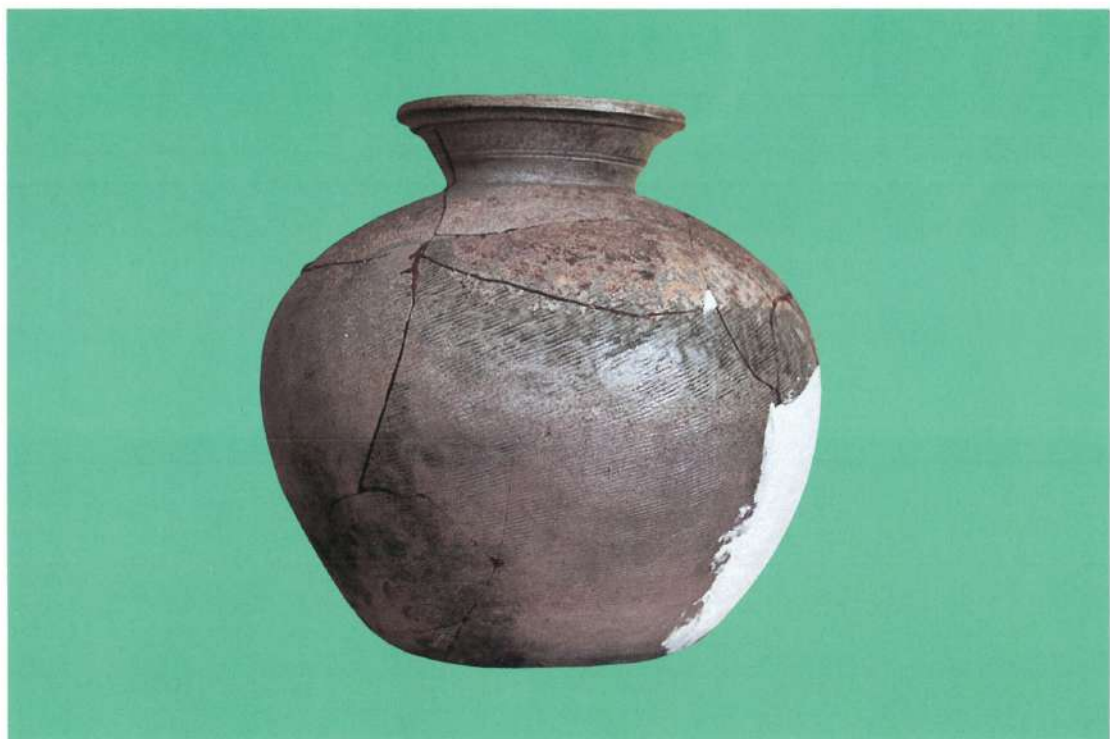
弥生時代 磨製石斧（左端有孔磨製石斧）宮ノ上遺跡出土



古墳時代 五鈴鏡 宮ノ上遺跡出土



初期土師器 高台付壺 宮ノ上遺跡出土



須恵器大壺 天伯遺跡出土



新四国霊場の一部（霊場碑と第一番釈迦如来）



大和泉神社本殿の彫刻（立川流の宮大工 小口直四郎作）



子供御輿



かんぴょう



鹿 祭 り



鯉 の ほ り

発刊のことば

南箕輪村長 三澤 準
村誌編集委員

南箕輪村村制施行百周年記念事業の一環として、村誌編集の事に着手しましたのが昭和五十一年八月のことです。「南箕輪村誌編集委員会」が刊行委員四十余名、専門委員四十数名の方々にご委嘱を申しあげ、当初五か年計画の発刊予定で発刊いたしました。

目的とするところの南箕輪村の立地ならびにその歴史的過程を明らかにして村民の郷土に対する理解を深め、文化遺産を長く後世に伝えるとともに、将来の南箕輪村の発展に寄与するための村誌を編集するとなると、まさにこれは一大事業でありまして、計画してから八年の歳月を経て漸く上巻（自然編・遺跡編・信仰生活編・民俗編）を昭和五十九年末に、続いて下巻（歴史編）を六十年代中に刊行する運びとなりました。長い年月にわたり昼夜の別なく資料の収集・原稿の執筆等に努力され、文字どおり心血を注ぎ辛酸を重ねていただいた専門委員の皆さん、それに貴重な資料や門外不出の秘蔵の史料等を快くご提供いただいた所蔵者ならびに関係各位のご協力に対し、村民とともに厚くお礼を申し上げます。

村誌編集の基本方針については、村の伝統と歴史を正確に解明してこれを記録にとどめ、先人の英知を理解しながら伝統の上に立って、来たるべき二一世紀を創造する文字どおり「温故知新」のための權威ある座右の史書たらしむべく、写真図表等を多く取りいれ、わかり易く親しみ易く読み易いことに意を注ぎました。縄文の昔以来の多くの遺跡、その時代々々の貴重な文化的遺産を全村民共有の財産として大切に保存し、これを永く後世に伝えて行くため南箕輪村にかかわる膨大な資料を整理収録し、多くの人に常に愛読されるような村誌を刊行してその責務を果たせますことは、誠に喜ばしいことであります。

この村誌を一人でも多くの方が活用されて、我が郷土への理解と認識を深められ、本村の将来あるべき姿を探るよすがとなることを希望して止みません。今後再びこのような史書の出版は至難のことと思いますので、南

箕輪村の方々はいうに及ばず、広く一般地方史を研究する人々にもこの期を逃がすことなくぜひともご購読くださいますことをお勧めいたします。

わがふるさと南箕輪村を知る貴重な村誌上巻の刊行にあたって、編集執筆にあたられた関係の皆さん方に重ねて深甚なる感謝を捧げながら発刊のごあいさつと致します。

昭和五十九年九月十日

凡 例

一、「南箕輪村誌」は、上下二巻とし、上巻には自然・遺跡・信仰生活・民俗の四編を、下巻は歴史編（原始・古代・中世・近世・現代）の一編をもって編集した。

二、「遺跡編」を上巻としたのは、主としてページ数の関係であるが、ここでは遺跡の報告書による実態の記述だけにとどめ、その歴史的叙述は歴史編においてすることとした。

三、「信仰生活編」を上巻としたのも、主として同じ理由であるが、古くから現在まで村人のふだんの生活の中に深くいこんできている信仰的生活を遺跡編の次に入れてみた。

四、自然編・遺跡編・信仰生活編・民俗編と並べみると、ここに太古から今日にいたる村人の、基底的な生活の流れをみることができ、また下巻を歴史編として原始から古代・中世・近世・現代と中断することなく一貫して記述できることになった。

五、だれにでも読まれるようにと、義務教育終了程度を目途として、記述はできるだけ平易に努め、次の諸項目に留意した。

- (1) 写真や図表を多くして、親しみやすくした。
- (2) 目次をなるべく詳細にして、索引を兼ねるようにした。
- (3) 本文は、常用漢字・現代仮名づかい及び送り仮名を原則とした。固有名詞・専門用語等やむをえないものには振り仮名をつけたり、(ハ)で説明を加えたりした。
- (4) 引用文は、ほぼ原文のまま使用したが、白文を読み下し文に改め、また「(コト)」、「(ヨリ)」、「与(ト)」而已(ノミ)などは読みやすく改めた。
- (5) 度量衡については、当時実際に使用していた単位を用い、いちいちメートル法に換算することを省略した。なお、換算表をシオリに印刷した。
- (6) 年号は、和暦を用い、江戸時代までのものには西暦をカッコで付記した。
- (7) 数字は原則として略記法とするが、万・億はつけることにした。たとえば二万三千四百五十円を「二万三四五〇円」と記述した。

(8) 度量・比率・温度等の単位は、kg (キログラム)・t (トン)・m (メートル)・ha (ヘクタール)・℃ (摂氏温度) などの略記号を用いた。

六、写真・図表については次のようにした。

(1) 執筆者・編集関係者でないものだけに、撮影者名、提供者名などを記した。

(2) 必要と思われるものには撮影年月日を記した。

七、人名の敬称はすべて省略させていただいた。

八、部落という用語は民家の一群・村の一部として地縁地域の意味だけに使用した。

九、参考文献とか参考図書を巻末に記載することはすべて省略させていただいた。

目次

発刊のことば

凡例

自然編

第一章 村の自然概観

第一節 境域

一 村の相対的位置と境域

二 各区の区境

第二節 位置・面積

一 水平的位置(緯度・経度)

(一) 村の位置

(二) 村の平地部

(三) 飛び地

二 垂直的位置(標高)

(一) 平地部

(二) 飛び地

(三) 他地域との関係

三 水平的関係位置(距離)

四面 積

第三節 自然概要

第二章 地形地質

第一節 長野県の地形地質

一 地形の概要

二 地質の概要

第二節 伊那盆地北部の地形地質

一 地形の概要

二 地質の概要

第三節 南箕輪の地形地質

一 地形

(一) 山地

(二) 平地

1 扇状地

2 沖積地

3 河川

二 地質

(一) 概説

(二) 礫層

1 礫種

2 礫層

低位段丘礫層／新期土石流・南殿段丘礫層／
神子柴Ⅱ段丘礫層／神子柴Ⅰ段丘礫層／南箕
輪段丘礫層／木村で一番古いと思われる礫層
(丸山礫層)

(三) テフラ層(火山噴出物層)

1 新期テフラ層

2	中期テフラ層	三
3	古期テフラ層	四
四	黒雲母粘板岩帯	五
四	活断層	五
四	地震	五
四	ソリフラクションか異質構造か	五
四	地形面	五
	低位段丘面／新期土石流・南殿段丘面／神子 柴Ⅱ段丘面／神子柴Ⅰ段丘面／南箕輪段丘面 ／丸山段丘面	五
第三章 土 壤		
一	第一節 総 説	五
二	第二節 土壌の生成と分布	五
三	第三節 土壌分類	五
一	地質系統及び母岩の種類による分類	五
二	理化学性から見た耕地土壌の分類	五
	耕地土壌の分類／黒ボク土／多湿黒ボク土／ 灰色低地土	五
第四節 土地改良		
一	西天竜土地改良事業	五
二	伊那土地改良区事業	五
三	伊那西部農業水利事業	五
第四章 陸 水		
一	水 系(河川)	五
第五章 気象と気候		
一	第一節 概 説	五
一	世界的気候区分からみた南箕輪の気候	五
二	日本の気候区分と本村の特徴	五
三	本村をとりまく地形の概要と気候	五
二	第二節 気 温	六
一	平均気温	六
二	最高気温と最低気温	六
三	夏日・真夏日、冬日・真冬日	六
四	気温の日変化・日較差	六
三	第三節 降 水	六
一	年別・月別降水量	六
二	降水日数・日降水量	六
三	時間最大降水量	六
四	砂防ダム湖・ため池	六
二	湧 水	六
三	井 戸	六
四	砂防ダム湖・ため池	六
一	木曾山脈を源流とする水系	六
	小沢川／鳥谷川／清水川／大泉川	六
二	段丘崖を源流とする水系	六
	半沢川／車沢川／中井沢川／大門川／入沢川 ／栃ノ洞沢川／滝ノ沢川／南沢川／北沢川	六
三	西天竜水系	六
四	伊那西部開発事業水系	六

四 梅雨と秋霖	九〇
五 雷 雨	九一
六 雪	九三
七 雹(ひょう)	九四
第四節 風	九四
一 風向・卓越風・風速	九四
二 暴 風(台風)	九六
三 その他	九六
春一番／黄砂現象／山谷風	
第五節 その他の気象	九八
一 日射と日照	九八
日射／日照時間・日照率	
二 湿 度	一〇二
相対湿度／相対湿度の年変化／相対湿度の日変化	
三 霜	一〇三
初霜と終霜／無霜期間／霜道・霜穴	
第六節 本村の年間の気象の姿	一〇四
気象観測表の見方／五四年一～四月／五七年一～四月／五四年五～八月／五七年五～八月／五四年九～十二月／五七年九～十二月／五四年と五七年の気象の比較	
第七節 天気とくらし	一〇三
一 気候と人体	一〇三
(一) 人間生活の最適気候と南箕輪の気候	一〇三
(二) 気候病・委節病・気象病	一〇四

1 気候病・委節病	一〇四
2 気 象 病	一〇五
二 気候と生活	一〇五
(一) 気候と住居様式	一〇五
(二) 四季の変化と人間生活	一〇六
1 節 季	一〇六
2 生物季節	一〇七
三 気象と災害	一〇八
(一) 風 害	一〇八
(二) 水 害	一〇九
(三) 凍 霜 害	一一〇
(四) 冷 害	一一一
(五) その他の気象災害	一一二
四 気象・気候と農業	一一三
(一) 気温と農業	一一三
1 気温と作物の栽培限界と栽培適地	一一三
2 気温の変化(較差)と農業	一一四
(二) 湿気(降水量)と農業	一一五
(三) 温度・湿度と病虫害の発生	一一六
(四) 日長・日照と農業	一一七
第六章 植 物	一二三
第一節 総 説	一二三
第二節 生態と分布	一二四
一 西山の植物	一二四

二 里山の植物	二七	四 植物と行事等	二六
三 西天竜水田地帯の植物	二八	五 植物と方言	二六
四 天竜川の古い氾濫原の植物	二九	六 植物の今昔	二八
五 川原の不安定地帯の植物	三〇	(一) 昔の懐かしい植物	二八
第三節 農耕地の雑草	三〇	(二) 霊松一本木／カシノキの巨木／南殿のカヤ／ナンジャモンジャの木／モクロンジ／中ノ原の赤松とその並木／クマヤナギとアキグミ	二八
一 畑地の雑草	三一	(一) 草木で少なくなったもの	二八
二 水田の雑草	三二	(二) このごろ多く目につくもの	二八
第四節 社そうと巨木	三三	七 植物と子供の遊び	二八
殿村八幡宮の社そう／北殿庚申塚のエドヒガ ンザクラ／久保神明宮の社そう／大和泉神社 のケヤキ／田畑神社の社そう／白山八幡社合 殿のモミジ／神子柴御射山社のカラマツ／沢 尻恩徳寺のイチヨウ／酒屋のコウヤマキ／久 保西念寺のイチヨウ／田畑門屋墓のイチヨウ 雌雄樹／高岡のカヤ／神子柴一六組のアカマ ツ／大東のカヤ／古屋のスギ	三三	第八節 南箕輪植物目録	二九
第五節 帰化植物	三七	第九節 茸(キノコ)	二九
第六節 薬用植物と有毒植物	三七	一 菌類の中のキノコ	二九
一 南箕輪の薬用植物	三七	二 村内、県内のキノコ	二九
二 南箕輪の有毒植物	三七	三 キノコの分類	二九
第七節 植物と生活	三七	四 食用キノコ	二九
一 信仰の対象としての植物	三七	五 毒キノコ	二九
二 最近の植生の変化	三八	(一) 毒キノコについての迷信とその解明	二九
三 資源としての植物	三八	(二) 毒キノコの種類	二九
(一) 食用となる植物(嗜好植物も含む)	三八	(三) 毒の成分と解毒の方法	二九
(二) 用材・薪炭植物	三八	四 キノコ中毒の型	二九
(三) 飼料植物	三八	六 キノコの効用	二九
		(一) ガン(癌)に効くキノコ	二九
		(二) 菌類のはたらき	二九

第七章 動物……………二〇元

第一節 総説……………二〇元

一 自然環境と動物……………二〇元

(一) 地形と動物……………二〇元

(二) 気候と動物……………二〇元

二 植生と動物……………二〇元

三 開発と動物……………二〇元

第二節 生態と分布……………二〇元

一 哺乳類……………二〇元

二 鳥類……………二〇元

(一) 環境……………二〇元

(二) 村内に多く見られる鳥……………二〇元

1 人里に多く見られる鳥……………二〇元

2 人里から低山帯に多く見られる鳥……………二〇元

3 人里から亜高山帯に多く見られる鳥……………二〇元

4 人里から高山帯に多く見られる鳥……………二〇元

5 水辺に多く見られる鳥……………二〇元

(三) 小鳥の保護……………二〇元

(四) 長野県に普通に見られる鳥……………二〇元

三 爬虫類……………二〇元

四 両生類……………二〇元

五 魚類……………二〇元

六 貝類……………二〇元

七 カニ・エビの類……………二〇元

八 昆虫類……………二〇元

(一) 南箕輪の自然と昆虫……………二〇元

1 木曾山脈地域……………二〇元

2 大芝原に代表される平地林と畑作地域……………二〇元

3 西天竜水田地域……………二〇元

4 段丘崖下の地域……………二〇元

(二) 南箕輪の昆虫の分類……………二〇元

1 無翅亜綱……………二〇元

2 有翅亜綱……………二〇元

(三) 南箕輪の蝶……………二〇元

1 はじめに……………二〇元

2 南箕輪の蝶の生息地……………二〇元

3 南箕輪の蝶の分類と分布……………二〇元

4 南箕輪の蝶の季節的発生消長……………二〇元

5 南箕輪の蝶のファウナ(蝶相)……………二〇元

6 蝶の生活生態……………二〇元

(四) 南箕輪のセミ……………二〇元

1 南箕輪に生息するセミの種類……………二〇元

2 南箕輪に生息するセミの特徴……………二〇元

3 南箕輪に生息するセミの生態……………二〇元

(五) 南箕輪のトンボ……………二〇元

1 はじめに……………二〇元

2 南箕輪のトンボの生息地……………二〇元

3 南箕輪に生息するトンボの種類……………二〇元

4 南箕輪のトンボの成虫期間と交尾期……………二〇元

5 南箕輪に生息するトンボの特徴……………二〇元

6 ヤゴ(トンボの若虫)の生活生態……………二〇元

(六) 南箕輪のハチ	二九八
1 はじめに	二九八
2 ハバチ類	二九八
3 キバチ類、寄生バチ類	二九八
4 アナバチ類	二九八
5 ミツバチ類	三〇〇
6 マルハナバチ類	三〇〇
7 スズメバチ類	三〇一
九 蜘蛛類	三〇九
(一) はじめに	三〇九
(二) クモ類の体の構造	三〇九
(三) 南箕輪のクモの種類	三一
(四) クモの生活(定住性と放浪性)	三三
(四) クモ類の生活(狩猟性と造網性)	三四
(六) クモの生殖	三九
(七) クモの天敵	三二
第三節 生活と動物	三二
一 獣類	三三
二 鳥類	三三
三 魚類	三三
四 昆虫類	三六
五 動物と村の子供たち	三七
(一) 鳥と村の子供たち	三七
(二) 蜂追	三三
(三) イナゴとり	三四
(四) 魚とり	三五
(五) その他	三七

遺跡編

第一章 村内遺跡の概要

一 村内における遺跡の分布	三四
二 主要遺跡の発見発掘の経過	三四
三 南箕輪遺跡一覧表	四五

第二章 神子柴遺跡

一 位置及び環境	三四
二 遺跡発見の動機と経過	三四
三 第一次発掘調査	三五
(一) 発掘の主体・期日等	三五
(二) 出土遺物	三五
1 石器	五五
2 土器	五五
(三) 出土状況	五七
四 第二次発掘調査	五八
五 第一次、第二次発掘による神子柴遺跡の性格と問題点	五八
六 第三次緊急発掘調査	五八
(一) 遺跡調査主体及び期日	五八
(二) 遺構・遺物	五八
1 A地点における遺構・遺物	五九

(1) 先土器時代	三九
(2) 縄文時代	三三
(3) 歴史時代	三七
2 B・C・D・F地点の遺構及び遺物	三九
七 第三次発掘調査のまとめ	三三

第三章 大芝東遺跡

一 位置及び環境	三七
二 発掘の主体・期日・グリッドの設定等	三七
三 遺構と遺物	三六
(一) 住居跡	三六
(二) 土 塋	三七
(三) 溝状遺構	三三
(四) その他の遺物	三三
四 ま と め	三七

第四章 南高根遺跡

一 位置及び環境	三八
二 発掘の主体・期日・グリッドの設定等	三八
三 遺構と遺物	三九
(一) 住居跡	三九
(二) 土 塋	四〇
(三) その他の遺物	四〇
四 ま と め	四五

第五章 北高根A遺跡

一 位置及び環境	三九六
二 発掘の主体・期日・グリッドの設定等	三九六
三 遺構と遺物	三九七
(一) 住居跡	三九七
(二) 柱穴群	四〇一
(三) 土 塋	四〇一
(四) 溝状遺構	四〇四
(四) その他の遺物	四〇四
四 ま と め	四〇九

第六章 高根遺跡

一 位置及び環境	四二〇
二 発掘の主体と期日	四二二
三 遺構・遺物	四二二
(一) 竪穴跡	四二三
(二) 土塋群	四二三
(三) 縄文土器	四四四
(四) 出土陶器	四四七
四 ま と め	四四六

第七章 天伯遺跡

一 位置及び環境	四四九
----------	-----

二 発掘の主体と期日	四〇
三 遺構・遺物	四〇
(一) 住居跡	四〇
(二) 出土遺物	四〇
1 縄文土器	四〇
2 縄文時代その他の遺物	四〇
3 弥生土器	四一
4 土師器	四二
5 須恵器	四六
6 灰釉陶器	四七
7 鉄製品	四七
8 紡錘車	四八
四 所見	四八
(一) 縄文文化	四八
(二) 弥生文化	四九
(三) 土師式文化	四九

第八章 箕輪遺跡	四九
一 遺跡の位置と自然環境	四九
二 遺跡の発見と発掘経過	四九
三 出土遺構と遺物	四九
(一) 遺構	四九
(二) 出土遺物	四九
1 土器・陶器の類	四九
2 石器類	四九
3 木製品	四九

信仰生活編

第一章 概説

4 その他の遺物	四一
四 箕輪遺跡の特徴と歴史的環境との関係	四一
(一) 箕輪遺跡の特徴	四一
(二) 箕輪遺跡と歴史的環境との関係	四一

第一節 信仰生活の概要	四五
一 呪術信仰	四五
二 農耕儀礼・神々の誕生・社のおこり	四六
三 神仏融合	四六
四 神社と寺院	四六
(一) 神社	四六
(二) 寺院	四六
第二節 江戸時代までの信仰生活	四六
一 神仏融合の信仰	四六
二 道標に見る信仰	四六
三 御師と村人の信仰	四六
四 寺檀制度による宗教統制	四六
五 朱印状による寺社の保護	四六
第三節 明治維新以後の宗教	四六
一 復古思想による神道の進出	四六
二 キリスト教の解放と圧迫	四六

三 神仏分離・廃仏毀釈	四七三	二 三峯神社	五七
四 神葬復礼	四九五	三 御射山社	五七
五 神社神道国教化の進行	四九七	四 伊雜皇大神宮	五九
六 戦時統制下の宗教界	五〇〇	五 諏訪大明神	五九
第四節 戦後の宗教界	五〇二	第四節 古宮・神社の跡	五九
一 国家神道の解体	五〇二	一 久保	五九
二 宗教の復興	五〇二	二 塩ノ井	五九
三 キリスト教	五〇三	三 北殿	五〇
第二章 神社	五〇五	四 田畑	五〇
第一節 概説	五〇五	五 神子柴	五二
第二節 鎮守社	五〇六	六 大泉	五二
一 神明宮	五〇六	第五節 神祇信仰	五三
二 塩ノ井神社	五〇七	1 諏訪信仰	五三
三 殿村八幡宮	五〇八	2 伊勢信仰	五三
四 田畑神社	五〇〇	3 八幡信仰	五三
五 白山社八幡社合殿	五一二	4 出雲信仰	五三
六 日光社月光社合殿	五二三	5 えびす信仰	五三
七 二宮神社	五二三	6 熊野信仰	五三
八 大芝神社	五二四	7 荒神信仰	五三
九 大和泉神社	五二四	8 天神信仰	五四
一〇 諏訪神社	五二六	9 山神信仰	五四
第三節 鎮守社に準ずる神社	五二六	10 水神信仰	五五
一 北殿神社	五二六	11 富士信仰	五五
		12 金毘羅信仰	五五
		13 蛭玉信仰	五五
		14 稲荷信仰	五五

15	山岳信仰	五〇
16	御嶽信仰	五〇
17	地神信仰	五三
18	戸隠信仰	五三
19	秋葉信仰	五三
20	三峯信仰	五三
21	津島信仰	五三
22	蛇神信仰	五三
23	金山様信仰	五三
24	天伯信仰	五三
25	半僧坊信仰	五三
26	塩竈信仰	五三
27	白山信仰	五四

第三章 寺院

五五

第一節 概説

五五

第二節 寺・堂

五六

一 久保

五六

西念寺

二 塩ノ井

五八

西光寺

三 北殿

五八

松林寺／新四国霊場

四 神子柴

五四

薬師堂

五 沢尻

五一

恩徳寺

六 大泉

五四

勝光寺

第三節 寺・堂・庵の跡

五三

一 久保

五三

(一) 久保寺跡

五三

(二) 観音堂跡

五四

二 北殿

五四

(一) 観音堂跡

五四

(二) 薬師堂跡

五四

(三) 十王堂跡

五四

(四) 松林寺跡

五四

三 南殿

五四

(一) 龍麟閣跡

五四

(二) 地藏庵跡

五四

(三) 海潮庵跡

五四

(四) 十王堂跡

五四

四 田畑

五四

(一) 地藏堂跡・お子安様

五四

(二) 薬師堂跡

五四

五 神子柴

五四

(一) 金剛院跡

五四

(二) 薬師堂跡

五四

六 沢尻

五八

金峰堂跡

七大 泉

(一) 太子堂跡	五八
(二) 勝光寺跡	五八

第四節 仏信仰

1 阿弥陀信仰	五八
2 薬師信仰	五九
3 観音信仰	五九
4 弥勒信仰	五九
5 勢至菩薩信仰	五九
6 地藏信仰	五九
7 大日如来信仰	五九
8 不動信仰	五九
9 愛染明王信仰	五九
10 虚空藏菩薩信仰	五九
11 文殊菩薩信仰	五九
12 毘沙門天信仰	五九
13 十王信仰	五九
14 摩利支天信仰	五九
15 五輪塔	五九
16 太子信仰	五九
17 大師信仰	五九
18 回国巡拝	五九
19 大乘妙典六十六部供養	五九
20 撰待供養	五九
21 宝篋印塔	五九
22 題目塔	五九
23 卵塔	五九

24 万霊塔	五七
25 修驗道	五七

第四章 民間信仰

第一節 概説

第二節 祝殿

第三節 講

一 山の神講

二 数戸又は数人で集まってする講

(一) 庚申講

(二) 甲子講

(三) 日待・月待の講

(四) 念仏講・観音講・子安講・御詠歌講

三代参する講

第四節 道祖神信仰

民俗編

第一章 衣生活

一 衣料

(一) 大麻

(二) 木綿

(三) 絹

(四) 雑織維

(四) 毛糸	五五
(四) 化学繊維	五五
二 機織り	五五
(一) 糸ごしらえ	五五
(二) 手染め	五五
(三) 機織りから織り上げるまで	五五
三 普段着・晴着	五五
(一) 下着	五五
(二) 着物	五五
(三) 羽織	五五
(四) 帯	五五
(四) 袴	五五
(四) ねんねこぼんてん	五五
(四) 外套	五五
(四) 襟巻	五五
四 仕事着	五五
(一) 男の野良支度	五五
(二) 婦人の野良支度	五五
(三) 頭や手足の保護に使われたもの	五五
五 雨具・雪具・はきもの	五五
(一) みの・かさ・からかさ	五五
(二) はきもの	五五
六 寝具	五五
(一) 布団	五五
(二) ねまき	五五
(三) どてら・たんぜん	五五
(四) まくら	五五

第二章 食生活

七 衣類の管理とつくり	五三
(一) 洗濯	五三
(二) 保管	五三
一 常の食	五四
(一) 米	五四
(二) 混食	五四
(三) こわ飯	五四
(四) すし	五四
(四) 餅	五四
(四) 粉食	五四
二 加工食品	五八
(一) 保存食・副食	五八
(二) 漬物	五八
三 調味料	五二
(一) 塩	五二
(二) 味噌	五二
(三) 醬油	五三
(四) 甘味料	五四
(四) 油	五四
(四) 酢	五四
四 酒類	五五
五 食事	五八
六 はれの食	五九
七 救荒食	六〇

第三章 住 生 活

八山の幸	六三
(一) 山 果	六三
(二) 山 菜	六四
(三) 茸 類	六五
九虫魚貝類	六五
一〇 食当りの手当	六六
一 屋敷構え	六九
二 家構え	六一
(一) 母 屋	六一
(二) 便 所	六三
(三) 土 蔵	六三
(四) 味噌蔵	六四
(五) 薪小屋	六五
三 建築儀礼	六五
(一) 地まつり(地鎮祭)	六五
(二) 柱建てと新始め	六五
(三) 棟上げ(上棟式)	六五
四 居住の習俗	六六
(一) 母屋の間取り	六六
(二) 戸間口ととおり	六六
(三) 馬 屋(厩)	六七
(四) 小間屋	六七
(五) 台 所	六七
(六) 勝手(流し)	六八

第四章 生産生業

(一) 部 屋	六三
(二) 風 呂	六三
五 灯 火	六三
(一) 火 種	六三
(二) 火 打ち	六三
(三) 付 木	六三
(四) マッ チ	六三
(五) 油	六三
(六) 灯 明	六三
(七) 行 灯	六三
(八) 提 灯	六四
(九) ラン プ	六四
(一〇) その他の火具	六五
六 暖 房	六五
七 煙 出し	六六
一 耕 地	六六
(一) 水 田	六六
(二) 畑 地	六六
二 米 作り	六六
(一) 播 種 期	六六
(二) 耕 起	六六
(三) 苗 代	六六
(四) 畔 塗 り	六六
(五) 代 掻 し ら え	六六

第五章 交通・運搬・交易・通信

第一節 交通

(六) 刈敷刈り	六三三
(七) 草場草刈り	六三三
(八) 土手草刈り・あぜ草刈り	六三三
(九) 仕上げ代	六三三
(一〇) 田植	六三三
(一一) 田の草取り	六三三
(一二) 収穫	六三三
(一三) 臼ひきと精米	六三三
三 畑作	六三七
四 養蚕	六三六
五 林業	六四〇
六 漁業	六四〇
七 わさび作り	六四一
(一) 冬草場からわさび畑へ	六四一
(二) わさび畑作り	六四一
(三) 植付・管理・収穫	六四二
八 稲わらの利用	六四二
九 夜業(よなべ・ようなび)	六四四
第一節 交通	六四六
一 道路	六四六
(一) 村の中の道	六四六
(二) 馬入れ道	六四六
(三) 他村への道	六四六
(四) 春日街道	六四七

第二節 運搬

(四) 伊那街道	六四八
(六) 権兵衛街道	六四八
(七) 道路の管理	六四八
二 交通施設	六五二
(一) 道標	六五二
(二) 橋	六五三
(三) 渡し舟	六五四
(四) 本陣と旅籠	六五五
三 旅の安全	六五五
(一) 昔の旅	六五五
(二) 旅立ち	六五七
(三) 陰膳	六五七
(四) 帰還お祝い	六五七
第二節 運搬	六五七
一 人力運搬	六五七
(一) 手にかかえて運ぶもの	六五七
(二) 背負って運ぶもの	六五八
(三) 腰につけて運ぶもの	六五九
(四) 肩でかついで運ぶもの	六五九
(五) 押したり引いて運ぶもの	六六〇
(六) 自転車	六六二
二 畜力による運搬	六六二
(一) 馬の背	六六二
(二) 運送車	六六三
(三) 乗合馬車	六六四
三 動力による運搬	六六四

第三節 交 易…………… 六六

一 訪問売りの商人…………… 六六

二 修理に回ってきた職人たち…………… 六六

三 呼売りの行商人…………… 六七

四 訪問買いにきた商人…………… 六八

五 市での交易…………… 六八

六 盆・暮れの勘定…………… 六八

七 交易用具…………… 六九

(一) 帳簿類…………… 六九

(二) 計量用具…………… 六九

(三) 計算用具…………… 六九

(四) 鑑札・看板・広告など…………… 六九

第四節 通 信…………… 七〇

一 近距離通信…………… 七〇

二 遠距離通信…………… 七一

三 郵便と電気通信…………… 七三

第六章 社会生活…………… 七四

第一節 ムラ(区)の生活…………… 七四

一 ムラ(区)の発生…………… 七四

二 ムラの運営…………… 七五

三 ムラの費用…………… 七六

(一) 昔の村入用…………… 七六

(二) 現代の区費…………… 七七

四 ムラの中の組織(組)…………… 七六

五 ムラの共有地…………… 七六

六 相互扶助…………… 六八〇

(一) 昔のムラの相互扶助…………… 六八〇

(二) このごろの組の相互扶助…………… 六八二

七 ムラ 役(ムラ人足)…………… 六八三

八 ムラ制裁…………… 六八四

第二節 ムラ定め・村定め…………… 六八五

一 一般のムラ定め…………… 六八五

二 儉約のムラ定め・村定め…………… 六八六

(一) 江戸時代のムラ定め…………… 六八七

(二) 明治時代の村定め…………… 六八八

(三) 大正時代の村定め…………… 六八九

(四) 昭和戦前の生活改善…………… 六九一

(五) 戦後の生活改善…………… 六九三

第三節 家の生活…………… 六九三

一 家 株…………… 六九三

二 家 筋…………… 六九四

三 血 統…………… 六九四

四 身 上…………… 六九四

五 家 柄…………… 六九四

六 屋 号…………… 六九五

七 家 族…………… 六九五

八 親 類…………… 六九五

九 分 家…………… 六九六

一〇 本家分家の関係…………… 六九六

一一 同族組織…………… 六九八

一二 家督相続…………… 六九

一三 養子縁組と遺跡相続…………… 六九

一四 隠居…………… 七〇

第四節 年齢集団…………… 七二

一 子供組…………… 七三

二 若者組…………… 七三

三 娘組…………… 七四

四 中年組…………… 七四

五 消防組…………… 六五

六 婦人会…………… 七五

七 老人組…………… 七五

第七章 人の一生…………… 七六

一 産育に関する習俗…………… 七六

二 幼少年期の習俗…………… 七九

三 成人に関する習俗…………… 七〇

四 年祝いに関する習俗…………… 七一

五 婚姻に関する習俗…………… 七二

(一) 結婚の成立まで…………… 七三

(二) 結婚式の準備…………… 七五

(三) 結婚式…………… 七六

(四) 結婚式以後…………… 七九

(四) その他…………… 七〇

六 仏式葬…………… 七二

(一) 臨終…………… 七二

(二) 通夜…………… 七三

(三) 湯灌・納棺…………… 七三

(四) 火葬…………… 七三

(四) 葬送の段取り…………… 七三

(六) 役割分担…………… 七三

(七) 葬儀の準備…………… 七四

(八) 野辺送り…………… 七七

(九) 追善供養…………… 七二

(三) 風習の移り変わり…………… 七三

七 神葬…………… 七三

(一) 由来…………… 七三

(二) 葬儀…………… 七三

(三) 霊祭り…………… 七四

(四) 後の祭り…………… 七四

第八章 民俗知識…………… 七五

一 家庭のしつけ…………… 七五

二 医療衛生…………… 七六

三 俗信…………… 七七

(一) 予兆…………… 七七

(二) 占い…………… 七九

(三) 禁忌…………… 七四〇

(四) 呪い…………… 七四三

七四五

(一) 朝の手伝い……………七四五

(二) 子 守 七四

(三) 小家畜の飼育と管理……………七四六

(四) 掃除・草とり・洗濯……………七四六

(五) たきもの拾い……………七四六

(六) 養蚕の手伝い……………七四六

(七) 稲作の手伝い……………七四七

(ハ) 風呂の手伝い……………七四七

(九) ランプのほやみがき……………七四七

(一) 年中行事にとりまなう遊び……………七四七

(二) 碁石などを使う遊び……………七四六

(三) 虫とたわむれ遊ぶ……………七四九

草花で遊ぶ……………七四九

(五) 木の實とり……………七五

(六) きのこ取り……………七五〇

へー、遊び………七五

(六) その他の遊び……………七五

三 リズムをつけた童謡……………五

四 童 唄

(一) 子守唄
.....
七五

(二) てまり唄
七五

(三) お手玉唄……………七五四

七五七

(五) その他の遊び唄……………七五五

正月行事

(一) 大正月……………七

(二) 小正月……………七五

(三) 二十日正月……………七六

二 春夏の行事

三 お 盆 …… 六

四 秋の行事 七六

五 歳末の行事……………七〇

144

一鹿祭り……………七三

二地芝居……………七四

三 芝居興業……………七五

四盆踊り……………七六

五 おんたけやま……………七七

六 大泉ばやし……………七〇

七
そ
の
他
.....
六二

曲
.....
六三

(二) 獅子舞……………六三

(三) 湯
立
……
七三

第二章 説話・伝説

一 はじめに	六四
二 自然伝説	六四
1 不死清水	六四
2 窯どぶ	六五
3 大泉川の水	六七
4 霊松一本木	六八
5 エドヒガン桜	六九
6 榎の木	七〇
7 蛇塚	七〇
8 猪の子芝	七一
9 送り犬	七一
10 獄門草畑	七三
11 三足鶏	七三
12 音羽の池	七三
三 歴史伝説	七四
1 一里塚	七四
2 権理塚	七四
3 長慶塚	七五
4 五輪塔	七五
5 御射山様	七六
6 長者の井	七七
7 部落名のいわれ	七九
8 塩ノ井に過ぎたるもの	七九
9 北殿四十九塚	八〇

四 宗教伝説

1 子安観音	八〇
2 お子安様	八一
3 大銀杏	八三
4 目の神様	八三
5 薬師堂の焼け仏	八四
6 薬師堂跡	八五
7 穢守殿	八五
8 来る身塔婆	八五
9 上人塚	八七
10 立石	八八
11 おこわさま	八八

第三章 方言

一 はじめに	八〇
二 方言意識	八〇
三 本村の方言の位置	八〇
四 本村の方言と使用例	八一
あゝん(五十音順)	
南箕輪村誌編纂委員会会則	八四
南箕輪村誌刊行委員(昭和五九年度)	八四
主なる資料提供者	八四
南箕輪村誌編纂委員会(構成)	八五
上巻執筆者	八四
あとがき	八四